



編集・発行 日蓮宗 能勢妙見山 広報部 〒563-0132 大阪府豊能郡能勢町野間中 電話 072-739-0329 FAX 072-739-2883

思いやる心

倉橋 観隆

私は兵庫県明石にある神戸刑務所で受刑者更生の助手として教誨師を務めています。収容者は現在約千八百人おり日中は工場と呼ばれる施設で作業をします。それは約二十箇所ほどに分かれており、犯罪歴や各自の適職を考慮し配属されます。そこで技術や資格を取得し、出所後の社会復帰の訓練を行うのです。また、自分の犯した犯罪に向き合うプログラムや身心の健康を図る運動の時間もあります。その刑務所行事で昨年こんなことがありました。秋の運動会での事。収容者が最も熱くなるイベントで

す。体を思い切り動かしたり、何よりも私語を厳しく制限されている日々の中でこの時だけは応援等で大声を出すことが許されています。個人百メートル走、綱引き、玉入れ、障害物競争等。しかし、なんとと言っても最高にヒートアップするのが所属工場の対抗リレーです。各部署の選抜メンバーが一ヶ月前から練習に励んで来ました。運動会当日決勝戦での出来事です。予選を勝ち抜いた七チームのトップを独走していたあるチームのアンカーがゴール寸前、突然足がもつれて転んでしまいました。結果は最下位。彼はうなだれ重い足取りでチームに戻って来ました。

すると他のメンバーはなんと彼の体中に付いた泥を払ったり肩を叩いて励ましているではありませんか。退場の時そのチームの応援席からは「ドンマイ」の声と大きな拍手まで湧き起りました。彼らが工場対抗にこだわっていただけに、私にとつて意外な光景でした。思わず熱いものが込み上げました。来賓席の方々も目を赤くしていました。

彼らの胸の奥に眠っていた「人を思いやる心」にスイッチが入った一瞬だったのでしょうか。日蓮大聖人は「非道の悪人であつても妻子を慈愛する。これ菩薩の心の一分である」と説かれています。心の奥底に眠っている、人を思いやる菩薩の心を蘇らせる事が信仰の要になるのです。そのことを再確認できた一日でした。

《法華経に学ぶ現代》

～純智庵～

童男・童女の身を以つて得度すべき者には

童男・童女の身を現じて

爲に法を説く

『観世音菩薩普門品第二十五』

お地藏さまはわらべ顔

おまけに腹あて掛けている
どうしてだろうと思つたら

賽の河原で迷う子を

胸に抱いて救うのが

お地藏さまの仕事とか

それならば

無垢なああ頃思ひ出し

素直な心と呼び出して

子供に帰ってみませんか

【11月の主な行事】

☆七五三詣祈禱 1日～30日

◎お子様の成長を祈つて七五三詣りご祈禱を11月中旬執り行つております。

※祈禱札と記念品を授与
御祈禱料 三五〇〇円

☆宗祖日蓮聖人御会式法要
12日(土)～13日(日)

※法要に参加された方にはお会式桜とおはぎの供養があります

★写経会 13日(日)11時

★月例祈願法要 15日(火)13時

★星嶺演奏会 20日(日)11時

星嶺にて生演奏。入場無料。

★星嶺茶論 20日(日)13時

お題目の太鼓練習です。

★鷗様月例祭 22日(火)15時

【12月の行事予定】

★写経会 11日(日)11時

初心者の方もどうぞ！

★月例祈願法要 15日(木)13時

★鷗様月例祭 22日(木)15時

火伏守札を授与

*12月から2月までの星嶺茶論はお休みします

《交通のご案内》

◆ケーブル&リフト12月4日まで毎日運行中

◎新年歳始祈禱のお申込みの受付を開始致しました。

慈悲はここに

相川 大輔

先日、ジェット・リー主演の映画『海洋天堂』を観た。ジェット・リーといえはカンフーアクションの代名詞であるが、その印象からは程遠い、自閉症の息子を持つ父親というシリアスな役を演じている。

重度の自閉症である二十歳の息子の父親が、ある日、自分が末期ガンであり先が長くないことを知る。

息子の行く末を悲観した彼は海で心中を図るが息子の抵抗により失敗する。その後彼は、息子を受け入れてもらえる施設を探すことに奔走しながら、日常生活に必要なことを根気よく死の直前まで息子に教えていき、結果、息子は父親の勤め先であった水族館の掃除夫として生活していくことができるようになる。

この映画で注目すべきな

のは、父親の息子を見つめる視点の変化である。心中を図った時には自分の主観のみで息子を見ており「かわいそう」「将来一人で生きていけるだろうか」などと感情的になってしまっている。しかし、心中失敗後の父親の一連の行動は、息子の立場に立って問題の解決を図ろうとしている。つまり、どうすれば息子がこの世界で幸せに生きていけるかを考えて行動しているのだ。

そして最も心を揺さぶられた父親の行動は、勤め先の水族館の水槽を息子と二人で泳ぎながら「いいか、父さんはウミガメだ！父さんはウミガメだからな！」と懸命に、自分なき後、息子が自分の存在を感じることをできるように、自分とウミガメを重ねて見ることを教えたことだ。父なき後水槽でウミガメの背中を追いか、そしてウミガメを抱き

突然パソコンが故障した。全てのデータにアクセスできなくなり自分の目の前も真っ暗になっていく。なんとか気を持ち直してこの原稿を書いているが、買って一年経たないのに、まさか壊れるとは思っていなかった。

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

振り返ると人生も同じかもしれない。自分しめた時の息子の表情の何と穏やかだったことか！お釈迦様の慈悲とは、きつとこの父親の息子に対する愛情のようなものではないだろうか。

私たちもまた、この息子のように心から願うのなら、いつでもお釈迦様の慈悲に触れることができるだろう。なぜならば、お釈迦さまは常にここにいて私たちを待っていて下さっているのだから。

俳壇

紅葉山歩け歩くと家族連れ
雲低く花野ふるわすへリコプター

旧姓で呼び合ふ集ひ雁来紅がんらいこう

秋冷や繕ひの針ままならず

アルバムに拾ふ思ひ出夜の長し

暦のあれこれ

八専(はつせん)
十干十二支を組み合わせた六十日の中で、五行(木火土金水)が同じ気の比和(ひわ)という関係になる日があり、その中の八つの日が壬子(みずのえね)から癸亥(みずのと)の十二日間に集中しています。この比和の集中する十二日間を暦では「八専」といいます。

この八専は十干と十二支が同じ気である為、気が偏り易いとされ吉はますます吉に、凶はより凶になると考えられています。しかし、その後凶の事ばかりが強調される様になり、万事物事を控えるべき時とされたのです。

また、天気の良いでも使われ、八専は雨が多い期間とされました。これは八専が水の気で始まり、水の気で終わることからきたのでしようが、そのため農家では特に気にしていたということです。